研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-131		20-060	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Maternal alcohol use, adverse neonatal outcomes and pregnancy complications in British Columbia, Canada: a population-based study
カナダブリティッシュコロンビア州における妊婦の飲酒と新生児の有害事象、妊娠合併症について

執筆者

Popova S, Dozet D, O'Hanlon G, Temple V, Rehm J.

掲載誌

BMC Pregnancy Childbirth. 2021 Jan 22;21(1):74. doi: 10.1186/s12884-021-03545-7.

キーワード	PMID
妊娠、新生児、集団ベースの横断研究	33482764

要　旨

目的：
カナダのブリティッシュコロンビア州において、妊娠管理担当者により高リスクと判断されるような飲酒（高リスク飲酒）をしている妊婦の割合を推定すること、また、飲酒と新生児の有害事象、妊娠合併症の関連を明らかにすること。

方法：
本研究は集団ベースの横断研究であり、ブリティッシュコロンビア州周産期登録で母体・新生児が紐付けされた記録のうち、2015 年 1 月～2018 年 3 月に退院した分娩を対象とした。主要評価項目は、高リスク飲酒と母体の特性や新生児の有害事象、妊娠合併症との関連である。妊娠中における期間および年度毎の飲酒率を推定した。また、妊娠中の高リスク飲酒による、新生児の有害事象と妊娠合併症への影響をカイ二乗検定およびロジスティック回帰分析により検討した。

結果：
計 144,779 例の母児が紐付けされた記録が対象となった。妊娠中の期間飲酒率は 1.1%で、年度毎の飲酒率は 2014/2015 年度から 2017/2018 年度まで、それぞれ 1.1 %、1.1%、1.3%、0.9%であった。高リスク飲酒は母体の低年齢、少ない健診回数、初産婦、精神疾患の既往、薬物使用や喫煙と関連していた。高リスク飲酒のあった母体から産まれた新生児は、低出生体重児（ICD10: P07.1; 調整オッズ比 OR=1.25; 95%信頼区間 95%CI=1.01, 1.53）、呼吸窮迫（ICD10: P22.8; OR=2.57; 95%CI=1.52, 4.07）、母体乳房からの哺乳困難（ICD10: P92.5; OR=1.97; 95%CI=1.27, 2.92）、哺乳困難・詳細不明（ICD10: P92.9; OR=2.06; 95%CI=1.31, 3.09）のオッズ比が高かった。妊娠合併症（妊娠中の出血及び子宮内胎児発育遅延）については、高リスク飲酒は統計学的に有意な影響を及ぼさなかった。

結論：
妊娠中の高リスク飲酒は、母体の特性や新生児の有害事象と関連していた。カナダにおいて、妊娠中の飲酒に対するスクリーニングや高リスク飲酒が確認された妊婦に対する簡易な介入や専門的な治療、支援プログラム、地域のリソースの提供などの予防策が至急必要である。